



広報 KōGA NO.28

こが

古河

目次

- 2 ねんりんピックカメラルポ
- 4 民生委員児童委員の活動
- 6 ようこそ古河市へ!! 中国三河市来訪
- 8 火の取り扱いに注意しましょう

1

JANUARY

2008

さわやかな長寿の風が吹いた 「ねんりんピック茨城」



▲開会式で選手宣誓をする たんげやすし 田家康さん(左・市内常盤町)と山田雅子さん(右・牛久市)



▲年齢を感じさせない見事な飛び込みをする選手たち



▲見事な和太鼓で全国からのお客さまを出迎えた三和幼稚園の園児たち



▲振り付けつきの演奏を披露してくれた総和中学校吹奏楽部



▲力強い太鼓を披露してくれた創原太鼓のメンバー



▲競技会場で選手の応援をする小堤小学校のキッズサポーター

ねんりんピック茨城2007(第20回全国健康福祉祭いばらき大会)が、11月10日から13日まで県内各会場で開催されました。

古河市は「水泳交流大会」の会場となり、「おもてなしの心」で全国から約350人の選手団を迎え、市内の子どもたちやボランティア団体など延べ2,200人が参加し、飲物や豚汁、そばなどの提供など大会運営を支えてくれました。

多くの力が一つになって古河市にさわやかな長寿の風が吹いた「ねんりんピック茨城2007水泳交流大会」となりました。

大会を支えてくれた役員その他ボランティア団体の方々のご協力に感謝を申し上げます。

茨城2007水泳交流大会」



▲競技前に入念な準備をする選手たち



▲水泳交流大会のメダル
(右から金・銀・銅メダル)



▲平泳ぎ25mの種目で銅メダルを獲得した
田家康さん



▲選手たちに飲物を提供する
ボランティアの人たち



▲豚汁のサービスに体も心も暖まり
ました



▲地元そば打ち名人による手打ちそ
ばもいただきました



▲全国の選手と交流を深めた小堤小学校
のキッズサポーター



▲次回開催市の鹿児島市に大会旗の
引継ぎ後にマスコットを交換しました



▲鹿児島県のマスコット「さくら
らじまん」(左)と茨城県のマ
スコット「ハッスル黄門」(右)のご
対面

地域福祉のボランティア

民生委員児童委員・主任児童委員

民生委員児童委員・主任児童委員は地域福祉の推進役、そして、何かあったときに気軽に相談ができる地域の相談役として活動しています。

今回は、民生委員児童委員・主任児童委員の皆さんの取り組みをご紹介します。



■民生委員児童委員

民生委員児童委員は、民生委員法および児童福祉法に基づき、厚生労働大臣から委嘱をされた「民間の奉仕者」です。

今回の改選で212人(定数218人)が委嘱を受けました。任期は、平成19年12月1日から平成22年11月30日までの3年となります。

委員は、それぞれ担当の地域が決められており、地域福祉向上のために、さまざまな福祉活動を行っています。



【民生委員児童委員の働き】

社会調査	担当区域の住民の実態や福祉需要を日常的に把握します。
相談	地域住民が抱える問題について、相手の立場に立ち、親身になって相談にのります。
連絡通報	住民が、個々の福祉需要に応じた福祉サービスが得られるように、関係行政機関、施設、団体などに連絡し、必要な対応を促すパイプ役を努めます。
生活支援	住民の求める生活支援活動を自ら行い、支援体制をつくっていきます。
情報提供	社会福祉の制度やサービスについて、その内容や情報を住民に的確に提供します。
調整	住民の福祉需要に対応し、適切なサービスの提供が図られるように支援します。
意見具申	活動を通じて得た問題点や改善策について取りまとめ、必要に応じて民生委員児童委員協議会を通して関係機関などに意見を提供します。

■主任児童委員

主任児童委員は、児童福祉に関する事柄を専門的に取り扱う民生委員児童委員です。

今回の改選で10人(定数12人)が委嘱を受けました。

委員は、地域や担当区域内の小中学校および担当民生委員児童委員と連携を図りながら、活動を行っています。

【主任児童委員の働き】

- 児童福祉関係機関・施設等との連絡調整
- 区域の民生委員児童委員への救助活動
- 要援護児童・家庭への援助



■協議会活動

民生委員児童委員・主任児童委員による協議会が、市内に5団体組織されており、各協議会活動を行っています。活動内容は、毎月1回の定例会のほか、委員活動に必要な研修等を行っています。

協議会の組織は、右記のようになっています。

【協議会の組織】

- 古河市民生委員児童委員第1地区協議会(三和地区)
- 古河市民生委員児童委員第2地区協議会(古河第一中学区)
- 古河市民生委員児童委員第3地区協議会(総和地区)
- 古河市民生委員児童委員第4地区協議会(古河第二中学区)
- 古河市民生委員児童委員第5地区協議会(古河第三中学区)

お気軽に相談してください

民生委員児童委員・主任児童委員は、地域の皆さんの相談相手です。子育てに関すること、介護に関すること、健康・医療に関することなど、生活の中で気になっていることがありましたら、お気軽にご相談ください。

※施設の利用手続き等に必要な場合の調査書(稼働証明等)の作成も行っています。

○相談内容の秘密を守ります

民生委員児童委員・主任児童委員には、守秘義務があります。地域の皆さんから受けた相談内容の秘密を守り、個人情報やプライバシーの保護に配慮しながら支援活動を行います。

○民生委員児童委員・主任児童委員名簿

今回の改選により、委嘱された民生委員児童委員・主任児童委員については、広報古河お知らせページ1月1日号に名簿を掲載していますのでご覧ください。

【問】社会福祉課(総和福祉センター「健康の駅」内) ☎92-5771

ようこそ古河市へ!! 中国三河市教育交流考察団



▲笑顔で来市した三河市教育交流考察団の皆さん

古河市では、国際性豊かなまちづくり・人づくりのため、中国河北省三河市との交流を進めています。旧総和町が平成7年から相互に交流を深めてきましたが、今年度は11月15日から20日にかけて張曉明三河市委員会主任を団長に、中学生17人、関係者7人、総勢25人の教育交流考察団が古河市を訪れました。

【問】 総和庁舎(本庁)企画政策課
☎92-3111

6日間の滞在

考察団は滞在期間中、古河市役所への表敬訪問や市内の小・中学校の見学、両市の教育関係者による「教育関係者意見交換会」など、教育を中心とする交流を活発に行いました。

三河市の中学生たちは、6月に三河市を訪れた市内中学生の家庭に2泊3日のホームステイを体験しました。このほか、古河総合公園で桃の苗木を植樹し、忙しい日程ではありましたが、これまでのきずなを一層強める交流が行われました。

深まる教育交流

八俣小学校では、映像を使いながら学習の様子、教育目標などを紹介する歓迎セレモニーが行われ、その後実際に授業を見学。授業見学の後は体育館で行われた交流会アトラクションに参加しまし

た。八俣小学校の児童は合唱や楽器演奏、ダンスなどを披露、考察団の中学生は、この日のために練習した民族舞踊や剣術を披露し、お互いの交流を深めることができました。

また三和中学校では、創立50周年を記念して校舎の壁に作られた校章をかたどったすばらしい絵をバックに記念撮影を行ったあと、同じ中学2年生の授業を見学。漢詩の授業では、三河市の中学生が漢詩を読むなどして、授業に参加していました。また生徒会役員との懇談会では、学校紹介、三和中学校の感想などを話すなど、楽しく交流をすることができました。生徒会主催の歓迎セレモニーでは、全校生徒による合唱の披露や、6月に三河市に訪問した高橋さんによるインタビューなどが行われました。考察団が退場する際には、生徒たちが列を作り、

吹奏楽部の演奏と共に大きな拍手で送り出し、考察団の皆さんは、とても感激している様子でした。

訪問を受けた八俣小の大久保校長と三和中の鈴木校長からは共に「今回の考察団の皆さんの来校は、児童生徒たちにとって大変貴重な経験となりました。特に考察団中学生の真剣なまなざし、何事にも全力で取り組む姿は本校の子どもたちに大きな感動を与えたことでしょう。」と話されました。

友情を深めたホームステイ

三河市の中学生17人は、日本の文化や生活習慣を学ぶため、6月に三河市を訪問した古河市中生家庭で2泊3日のホームステイを体験しました。6月の訪中以来、半年振りの再会となった今回のホームステイ。教育交流が中心となっている両市間の交流の中で、「ホームステイが日本滞在中



▲古河市から考察団の張団長へ記念品を贈りました



▲八俣小学校の子どもたちと交流を深めました



▲三河市の中学生が披露した民族舞踊



▲三和中学校の授業を見学する考察団



▲三河市から贈られた桃苗を植えました
(古河総合公園)



▲別れを惜しんでいました

の一番の楽しみ」という三河市の中学生たち。日光市の世界遺産見学や都内見学、富士山登山などと共に各家庭で心温まるもてなしを受け、中国の家族、友人への土産話がたくさんできたのではないのでしょうか。

ホストファミリーからは、「三河市の子どもが、熱心に私の話を聞こうとする姿勢に感心しました。身振り手振りや英語などを使って、意思疎通を図ったので、言葉の壁を乗り越えてコミュニケーションがとれました。子ども同士もすっかり打ち解けていた様子で、あと1日ホームステイ期間が長ければもっと親交を深めることができたのではないのでしょうか。このような機会を得られて大変良かったです。」という声が聞かれました。

三河市の中学生も「ホストファミリーの皆さんがとても親切で、日本の家庭料理はとてもおいし

かった。」と話していました。

楽しかった歓送の夕べ

最終日の前夜には「歓送の夕べ」が開かれました。

市を代表して恩田副市長は「今宵は帰国を前にして、三河市中学生の皆さんをお迎えしたホストファミリーの皆さんと一緒に、6日間の滞在期間中の感想、思い出等を語り合い、友情をより一層深めていただきたいと思います。今後も更なる両市の発展と両国の大きな伸展を祈念し、また市民交流を推進してまいります。」とあいさつをしました。

このあと、両市の中学生による民族舞踊や合唱、楽器演奏などを披露し、会場はたいへん盛り上がりしました。最後に、考察団中学生の代表として、朱至可^{じゅうしーか}さんから「滞在期間中、一番印象に残ったのは2泊3日のホームステイでの生活です。ホストファミリーの皆さん

には大変お世話になって、自分の家と同じように感じ、一生忘れられない思い出となりました。ホストファミリーと古河市の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。また両市の友情がこれからも末永く続くことを信じています。古河市の皆さんを永遠に忘れません。海の向こうの日本と、永遠の友情と親交がいつまでも変わることなく続くことをお祈りします。」との感謝の言葉がありました。

古河市(旧総和町時代を含む)と三河市の交流は13年が経ち、両市は国際友好交流都市として深い友情関係を育んできました。今後、両市の友好関係がより幅広く、また大きな輪となって進展すると共に、中学生を中心とする教育交流がさらに発展することを期して、今回の相互訪問交流事業が終了しました。

火災の多い季節です!!

～火の取り扱いに注意しましょう～



これから、寒さも厳しくなり、暖房器具など火を取り扱う機会が多くなります。日ごろから、火災を起こさないように配慮するとともに、万が一、火災が発生しても被害を最小限に抑えられるよう備えましょう。



暖房器具などの取り扱いに注意しましょう

暖房器具を消し忘れないように注意しましょう。また、近くに燃えやすいものを置かないようにしましょう。さらに、コンセントの脱着はしっかり行い、定期的な清掃を心がけてください。

屋外での火の管理を徹底しましょう

焚き火など自分でつけた火は、完全に消すまで、その場を離れないようにしましょう。また、風の強い日は屋外での火の取り扱いには注意しましょう。
※屋外での消却等は届出が必要です。詳しくは、最寄りの消防署にご確認ください。

消火器などですばやく対応することで、被害が少なくなります。また、発見したらすぐ119番に通報しましょう。

住宅用火災報知器の設置が義務付けられています

平成16年6月の消防法の改正で、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。現在新築されている住宅には設置しなければなりません。既存の住宅も平成23年5月31日までに設置することになっています。

住宅用火災警報器とは、火災により発生する煙や熱を自動的に感知し、音や音声により、火災の発生を早期に知らせるものです。

価格は、機種によりさまざまですが、規格適合品の目安は5,000円から10,000円前後です。詳しくは、最寄りの消防署にご確認ください。

※御注意

消防署では警報器の訪問販売を行うことはありません。粗悪品や悪質な訪問販売には、十分ご注意ください。

古河市では、火災や災害時の活動をする消防団員を募集しています。
【問】総和庁舎(本庁)交通防災課 ☎92-3111

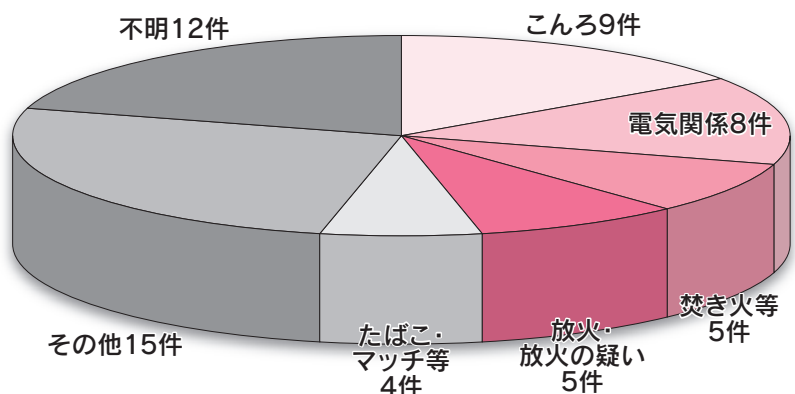
寝たばこは絶対にやめましょう

枕元での喫煙は、そのまま寝てしまうと灰皿から落ちたたばこから火災が発生する恐れがあります。寝たばこは絶対にやめましょう。

初期消火には消火器などが威力を発揮

火災には初期消火が一番です。

【古河市内で発生した火災の主な原因】



(平成18年1月～12月 合計58件)

叙勲・褒章・大臣表彰を受賞

秋の叙勲・褒章

瑞宝双光章



小野勝哉さん
(71歳、上辺見)
元特定郵便局長

瑞宝単光章



梅津貞夫さん
(69歳、東山田)
元郵政事務官

藍綬褒章



生沼盛次さん
(77歳、緑町)
古河地区防犯協議会
理事

高齢者叙勲

旭日単光章



峰吉國さん
(88歳、関戸)
元総和町議会議員

危険業務従事者叙勲

瑞宝単光章



小野勇治さん
(66歳、尾崎)
元東京消防庁
消防司令補

瑞宝単光章



鶴見哲夫さん
(66歳、上大野)
元東京消防庁
消防司令補

大臣表彰

総理大臣表彰



高田勝男さん
(75歳、横山町)
行政相談員功労者

厚生労働大臣表彰



野村安男さん
(72歳、中央町)
食品衛生事業功労者

瑞宝単光章



甲斐光男さん
(61歳、中田新田)
元准陸尉

各種表彰

茨城県表彰

- ・秋庭壽さん(66歳、大山)
古河地区少年指導委員連絡協議
会会長
- ・中野孝子さん(74歳、古河)
民生委員・児童委員

○第35回花と緑の環境美化コンクール
「第4部門学校の部」
県知事賞(釈迦小学校)

○第44回全国花いっぱいコンクール
協会賞(古河第六小学校)

全国大会で活躍

○第56回全国青年大会 体育の部「卓球」

11月9日から11日にかけて東京都江戸川区スポーツセンターで行われた第56回全国青年大会の体育の部「卓球」に茨城県代表古河市SPC卓球クラブが出場。

「団体の部・県別対抗」で2位、「個人男子の部」で高橋英二さんが優勝、「個人女子の部」で高橋絵理さんが3位という好成績を収めました。



▲左上から柿沼寛さん、野村徹さん、高橋絵理さん、大作和也さん
左下から高橋英二さん、関口鉄子さん

火縄銃の音が秋空に響きました

11月23日、古河歴史博物館堀周りで、古河歴史博物館秋の事業「戦国武将を思い起こす火縄銃の演武」が午前と午後の2回行われました。

演武者は川越藩火縄銃鉄砲隊獅子の会の皆さん。勇壮な鎧姿で堀周りに並び、銃を構え、指揮者の「放て」の合図で発射。一斉に撃つたり、順番に撃つたりして、さまざまな撃ち方を披露していました。

集まった観衆は、火縄銃の大きな音に拍手を送り、砲術が盛んだった古河藩の時代をしのいでいました。



▲火縄銃が放った音に、集まった人たちからオーという歓声が上がりました

未来の科学者たちがいっぱい

12月1日、広域中央運動公園総合体育館を会場として、第10回青少年のための科学の祭典古河大会が行われました。

この大会は「誰でも簡単に遊びながら科学が学べる」科学のお祭りです。会場内外のブースには、参加した小・中・高校、大学や企業、さらには街の科学者たちが来場した子どもたちに科学の楽しさをそれぞれユニークなやり方で伝えました。子どもだけでなく大人も十分に楽しめるイベントでした。



▲ロケットの打ち上げが成功すると、子どもたちから笑顔がこぼれました

初冬の夜空を熱気で包んだ「提灯竿もみまつり」

12月1日、関東の奇祭と知られる「古河提灯竿もみまつり」が祭り発祥の地である横山町柳通りの会場で盛大に行われました。

この伝統のお祭りを見ようと訪れた人の数は約8万人。遠方からの観客も多く、交流人口の拡大にも一役買う祭りとなりました。



▲上からは提灯のろうがたくさん落ちてきますが、そんなことはお構いなし



▲激しく竿をもみ合い、熱戦を繰り広げました

市民による清掃活動 きれいな街に

11月11日に三和地区、18日に総和地区、12月9日に古河地区において、街をきれいにする市民による清掃活動が行われました。

早朝から行政区や自治会ごとに協力してごみ拾いや道路側溝の清掃などを行い、皆さんの手できれいなまちになりました。



▲みんなで協力してごみ拾い(三和地区)



▲側溝もきれいに(総和地区)



▲拾ったごみもきっちり分別(古河地区)

日々新たなり

古河市長 白戸仲久

～新年あけまして おめでとうございます～

昨年は社会の各分野で格差が指摘され、生活面では原油高騰に伴う物価の上昇、そして年末恒例の世相を表わす漢字には「偽」が選ばれるなど、日本社会にとって決して良い年とは言えませんでした。

今年は安心して国民生活が送れる良い年になることを、ぜひ期待したいと思います。

さて、早いもので新生古河市として3回目の新年を迎えました。昨年の市政運営を振り返りますと、国民健康保険税の課税統一や自治組織の再編など、大きな課題を整理することができました。

合併に伴う未調整事項の大きな課題として、水道料金の統一がありますが、3月までには方向性を出したいと思います。

また、行財政改革につきましては、多額の債務超過で事実上の破綻状態にある住宅公社について、清算・廃止に向けた取り組みに着手しました。

さらに、新市発展の基盤づくりとして、まちづくり交付金事業(国庫補助採択)による古河駅西口地区の都市再生事業に着手

しました。歴史と文化を生かした、魅力ある商業と観光のまちづくりを目指したいと思えます。

そして、本年は、合併前後の移行期を経て、いよいよ新市として多様な施策の実現に向けて、作業を加速させていきたいと思えます。

交通弱者支援のための「デマンド交通(乗合いタクシー)」の運行、地域経済の活性化を目指した「道の駅」の設置・「どぶろく特区」の円滑な推進、学力向上を目指した「少人数学級」の導入、「総合的な文化施設」の建設促進、企業誘致の推進などは、その代表的な施策です。

どうぞ本年も、市民の皆様には市政に対する一層のご支援とご協力を、切にお願いします。

結びに、皆様にとりまして、健康で喜びと幸せに満ちた1年となりますことを心から念願し、年頭の挨拶といたします。



My Hobby

星空の魅力は無限に広がります

横塚弘幸さん(茶屋新田)



▲冬の星空は最高にきれいですよ

北風が冷たい夜。凜とした空気の中、ふと空を見上げると、きらきらと輝く満点の星。冬は星のきらめきが一層鮮やかになる季節です。今回は天体の観測を楽しむ横塚さんにお話を伺いました。

レンズを通して見た世界に感動

横塚さんが星空に興味をもつようになったのは、小学校3年生のとき。学習雑誌の教材についていたレンズがきっかけです。「2枚のレンズを組み合わせると望遠鏡になると知り、物干し竿に虫眼鏡を付けただけの簡単なものをつくってみました。さっそく空に輝く月に向けてみると、肉眼で見ていたのとは、まったく違った世界にびっくり。すぐに天体望

パークライフ 《 関東の名山に鋭気を養う(古河総合公園) 》

季節・気象・時間によって、立ち現れる景観があります。そのひとつが、空気のすんだ冬にこそ望むことのできる関東の名山です。

公園の敷地に境はあっても、公園からの景観に境はありません。冬の総合公園は、関東の峰々を公園の景観として活けどります。

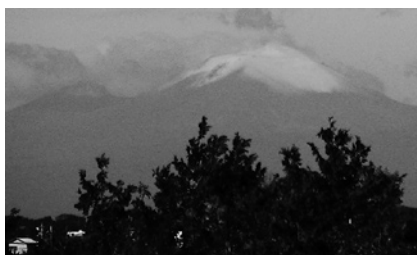
110km彼方の浅間山は午前中に富士見塚から、35km離れた筑波山は午後に筑波見の丘から、125km彼方の富士山は夕暮れに芋ころがし坂から望むのが良いでしょう。いずれも快晴であることが条件。あとは、皆さんのご都合が合うことを祈るのみ。再現することので

きない、ひとときの景観は、天と人とのタイミングが合わないと見ることはできないようです。

新しい年の始まりです。凍てつく寒風を全身に受けながら、雄大な景観を望み、一年の鋭気を養ってみませんか。さらに、気力充実して、山に向かって叫んでも、総合公園なら大丈夫ですよ。



▲天神橋越しの筑波山



▲冠雪の浅間山



▲墨流しの富士山

【問】古河総合公園
管理棟パークマスター
☎47-1129
FAX48-5685

Eメールkogapark-iwahori@bz01.plala.or.jp

遠鏡をねだってしまいました。」小学生のときの感動を、まるで昨日のこのように話す横塚さんの目が輝きます。

「なぜ？」の輪を広げたい

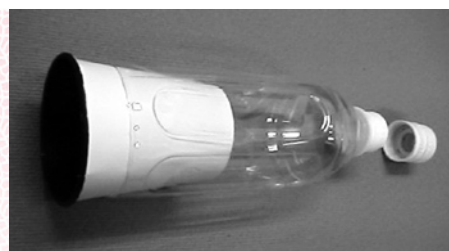
「天体の観測は、なぜ？不思議！の連続ですね。調べれば調べるほど奥が深い。天文の勉強は独学でやっている人が多いようで、最初は自分もそうでしたが、みんなの知識を共有しようとする志を集めて勉強するようになりました。」

高校生のときには、星空の魅力を子どもたちにも伝えようと、仲間5人で「栃木科学教育協会」を設立。少年自然の家などで、観測会を行うようになりました。その活動は現在も続いています。

子どもたちの感動が喜び

「“北斗七星ってどれ” “北極星って何座にあ

▶横塚さん考案のペットボトル望遠鏡。レンズは100円ショップで買った虫眼鏡を利用しています。



るの” こんな純粋な疑問を大切にしたい。子どもたちのクエッションマークを、大人が外してしまっただけではいけないですね。」と話す横塚さん。

自身が開催する星空教室では、ペットボトルを利用した望遠鏡や、ビニール傘の星座早見盤など、自ら考えた道具を子どもたちに実際に作ってもらうことから始まります。「買った道具を使うと、工夫がありませんから……」 ペットボトル望遠鏡で月を見て「おーっ」と歓声を上げる子どもたちの姿に、小学生のころの自分が重なるのかもしれませんが。「最近では仕事も忙しいせいも、自分の観測時間が減ってしまいましたね。」と笑いながら話してくれました。

文化財の窓 徳川家定朱印状

今年のNHK大河ドラマの主人公は、^{てんしょういんあつひめ}天璋院篤姫という江戸幕府13代将軍徳川家定の正室だった女性です。残念ながら市域と篤姫とのかかわりは確認できませんが、今回紹介するのは夫であった徳川家定が、篤姫興入れの前年にあたる安政2年(1855)9月に、仁連(仁礼)の天神社に宛てた朱印状です。

江戸幕府の将軍は、代替わりごとに先例に則^{のつと}って全国の寺社にそれぞれの領地支配を認める朱印状を出しています(これを継目安堵^{つぎめあんど}といいます)。このような朱印状は、市域でもいくつかの寺社に伝えられており、そのうち1社1寺のものが現在、市の有形文化財に指定されています。

今回の仁連天神社宛の徳川家定朱印状は、旧仁連村の名主宅に伝えられていたものです。これらの朱印状は、もともと天神社の別当寺をしていた安楽寺

が管理していたと思われますが、明治維新後に安楽寺が廃寺になったことにもなって、旧名主の家に引き継がれたものと考えられます。

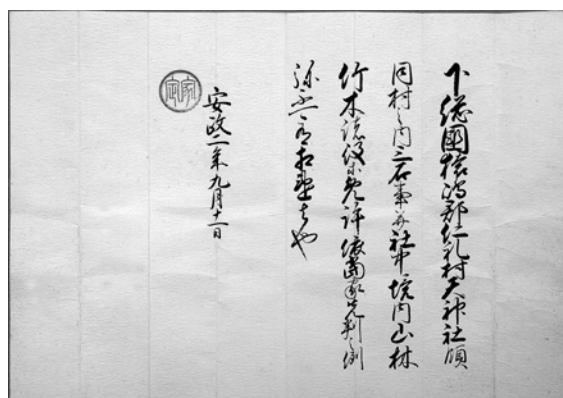
内容は、先例によって社領3石を安堵(領地支配を認めること)し、合わせて境内山林の竹木の伐採・

収納を許可するとともに諸役などを免除するという特権を天神社に付与したものです。

天神社などのような小規模の寺社では、3代将軍家光以来、在職年数の少ない何人かの将軍を除いて、14代家茂まで9人の将軍から朱印状が与えられるのが普通ですが、天神社宛のものは明治維新以降のさまざまな消滅の危機を乗り越えて9通すべて現存し

ており、非常に貴重なものといえます。

(三和資料館)



▲仁連天神社宛 徳川家定朱印状

古河歴史博物館

○冬のテーマ展「雪の殿さま 土井利位」(1月5日～2月24日)

～日本最初の雪の自然科学書『雪華図説』と江戸文化に受容された雪の文様の世界を紹介～

江戸時代後期の古河藩主、土井利位(1789-1848)は、雪の結晶の観察を20年間も続けて、天保3年(1832)、その成果を『雪華図説』という著作にまとめました。8年後に出版した『続雪華図説』とあわせて、日本における最初の雪の自然科学書と評価されています。

ところで、科学へのまなざしによって誕生した『雪華図説』でしたが、江戸庶民のあいだに、おもわぬ反響を呼び起こすことになりました。利位の観察した183種の結晶は、美しい文様として、さまざまな意匠に用いられることになったのです。

○テーマ展「オランダ正月 鷹見泉石の交流」(1月5日～3月31日)

～オランダ料理で交流を～

蘭学者大槻玄沢が主催した「オランダ正月(新元会)」は歴史教科書にも掲載されていますが、鷹見泉石は、それに出席して多くの知識人と交流を深めました。オランダ船による舶来品入手に、特別な人脈を持っていた泉石は、珈琲やワイン、チーズ等々の食品を手に入れて、情報収集の見返りにそれらを配っていたのです…



▲原羊遊齋 作「雪華文蒔絵印籠」
国指定重要文化財



◀「金彩花つもんきりこびんなぎ文切子瓶と金彩型吹きコップ」国指定重要文化財

休館日：1/7・15・21・25・28、2/4・12・18・22・25、3/3・10・17

【問】古河歴史博物館 ☎22-5211

図書館おすすめの図書

◇一般書

・女たちの内戦

桂 望実 著



女たちの戦いは終わらない。恋愛、結婚、仕事、子育て、そして家族…。理想と現実の間をさまよう4人の女性たちの葛藤を描く連作長編小説。
出版社…朝日新聞社
分類…F カ

◇児童書

・14匹のもちつき

いわむら かずお さく



お父さんがまきを割り、おじいさんがかまどに火を入れ、おばあさんがお米の水をきり、それをさっちゃん(お米)がせいろに入れ…。みんなで力を合わせてもちつきの準備。さあ、どんなおもちができるかな。14ひきのシリーズ。
出版社…童心社 分類…E (古河図書館)

健康情報局

インフルエンザの予防

毎年、12月から3月にかけて流行するインフルエンザ。特に、高齢者や乳幼児などは、重症化することもあるため、普段から注意が必要です。

なぜとインフルエンザの違い

かぜは、咳や鼻水、のどの痛みなどが主な症状であり、熱が出て38℃以下のことが多いのに対し、インフルエンザは、突然38℃以上の高熱が出て、関節や筋肉の痛みや頭痛などの全身症状が強く出るのが特徴です。

インフルエンザは、ウイルスに感染した人のくしゃみや咳などに混じって、ウイルスが空気中に飛び、そのウイルスをほかの人が鼻や口から吸い込むことで感染します。

咳のエチケット

○咳・くしゃみをするときは、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、ほかの人から顔をそむけ1m以上離れる。

○鼻汁や痰などを含んだティッシュはすぐに蓋つきのゴミ箱に捨てるようにする。

○咳をしている人はマスクを着用する。

○マスクを使用する場合は、説明書をよく読んで正しく着用する。

日常生活でのインフルエンザ予防

インフルエンザを予防するためには、予防接種を受ける事が大切ですが、普段の生活でも感染しないような工夫が必要です。

○インフルエンザが流行する時期は、できるだけ人ごみの中へ出かけるのを避け、外出から帰ったら、うがいをし、石鹸をつけて、手の甲、指先、指と指の間、親指の周り、手首を念入りに洗いましょう。

○インフルエンザウイルスは、乾燥した環境では空気中に長くとどまり、湿度が高いところでは、長くとどまることができないと言われています。部屋の湿度を50%～60%になるよう加湿器を使ったり、こまめに水分を取ったり、マスクの着用をするなど、のどの乾燥を防ぐことが大切です。

○バランスのよい食事は、体の免疫力を高めて感染を予防することに役立ちます。3食しっかりと食べるようにしましょう。そして、睡眠をしっかり取り、疲れた体を休ませることが大切です。

もしも、インフルエンザにかかったかなと思ったら、自己判断をしないで、早めに医療機関で受診しましょう。

(健康推進課)

表紙写真

新年明けましておめでとうございます。早いもので古河市も合併して2年4カ月が経ち、「広報古河」もNo.28の発行となりました。これからも行政情報や市内の情報を市民の皆さんへ分かりやすくお伝えるために努力していきますのでよろしくお祈りします。

今年も市民の皆さんにとって健康で喜びと幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈りします。

(編集室一同)

表紙の写真は、渡良瀬遊水地付近の堤防から見える朝日の写真です。

寄付

東京電力(株)茨城支店下館支社(飯田芳一支社長)より、子どもたちの安全確保および夜間通行の安全対策・防犯対策として、公衆街路灯器具20基を寄付。

人口と世帯

(12月1日現在 住民基本台帳から)

総人口 146,055人 (-18)

男 73,256人

女 72,799人

世帯数 52,841世帯(+62)

()内は前月比

がめ煮汁 <糖尿病の予防>



エネルギー=82kcal、たんぱく質=8.7g、脂質=2.7mg、カルシウム=29mg、塩分=0.5g

材料(6人分)

鶏肉(1口大)200g、大根(乱切り)5cm、人参(乱切り)小1本、ごぼう(乱切り)15cm、生しいたけ(4等分)3個、きくらげ(食べやすく切る)適量、れんこん(乱切り)100g、こんにゃく(食べやすく切る)半分、長ねぎ(小口切り)少々、しょうが(みじん切り)少々、ごま油(大さじ1)、だし汁(7カップ)、しょうゆ(少々)、塩(少々)

作り方

- ①鍋にごま油をひいて、しょうが・鶏肉を炒め、野菜・きのこ・こんにゃくの順に入れて炒め、だし汁を注ぐ。
- ②野菜がやわらかくなってきたら、塩としょうゆで、調味し、ひと煮して、器に盛り、ねぎを散らす。
(食生活改善推進協議会)

アイドル登場

我が家の天使♡ 暴れん坊将軍!

野口星流くん・恋音ちゃん
(5歳1カ月・1歳1カ月・大堤)



暴れん坊将軍の星流です。とてもパワフルで元気いっぱいな所がとります。そんな星流から、パパとママはパワーをもらっています!

天使の恋音です。指先が器用で細かいことが大好きです。器用なところを料理に活かし、大きくなったらパパとママに美味しい料理を作ってネ。

2人の笑顔は、パパとママの宝物です。生まれてきてくれてありがとう。(父：克己さん・母：陽子さん)

古河風土記

繭玉の季節感

〜豊かな期待ただよ1月〜

混み合う正月の百貨店、その売り場には、たわんだ細い棒に、白とピンクの発泡スチロールの玉をつけた繭玉(まゆたま)がゆらゆら。なかには小判がきらきらなんてものも。

「繭玉」という言葉が知らなくても、「ああ、あれか」と感じることでしよう。なんとなく初売りの風物詩のように見ているこの繭玉は、もともと1月14日に飾られたものでした。

たとえば、仁連江口のSさんのお宅では、この日をトリマテといい、正月の飾りやお供え物をかたづけたいといいます。その際、ナラの木に団子をつけたものを、太



▲オカマサマに供えたナラセモチ(仁連江口)

盆と正月が来たような。そんな刺激的な毎日に生きる私たち。だからこそ、季節感のなくなりつつある、百貨店の飾り物に不自然さを感じなくなりました。それとなくまた、買い物に行くと、気がついたら売り場の天井には、繭玉に替わって造花が下がっていました。春はもうすぐ。季節感や飾り物に、なにも感じなくなっていたのは、なにをかいわん私自身だったのです。

「餅花(もちばな)の天井支え(たて)みけり」これは仁連の俳人江田飄逸(えだひょういつ)の一句。むしろ謙虚さが足りない私には「実るほど頭(うぶ)を垂(た)れる稲穂(いなほ)かな」。

(古河歴史博物館学芸員 立石尚之)

平成20年1月1日発行

●発行所/〒3061029 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 ☎0280(92)3111
●編集所/広報広聴課 ●ホームページ/ <http://www.city.futaba.lg.jp>